

## 第6学年 外国語活動学習活動案

日時 平成23年10月28日(金)5校時  
児童 6年2組 男9名 女16名 計25名  
指導者 大平 美香(T1:北松園小学校)  
大澤 郁恵(T2:北松園中学校)

### 1 単元名 Lesson 6 行ってみたい国を紹介しよう 「英語ノート2」(文部科学省)

#### 「行ってみたい国を紹介しよう」の活動内容

- 1 主としてコミュニケーションに関すること
  - ・自分の思いが伝わるようにスピーチをしたり,積極的に友だちのスピーチを聞いたりする。
- 2 主として言語や文化に関すること
  - ・英語の音声やリズムに慣れ親しむ。
  - ・世界には様々な英語が話されていることに気付く。
  - ・異なる文化に興味を持ち,文化に対する理解を深める。

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元は,世界の国々ではいろいろな英語が話されている事を知らせ,英語はコミュニケーションの道具であることを知り,伝えたいことを進んで英語で話してみようという意欲を育てていくことを主なねらいとしている。また,行きたい国やその理由を考えることで,様々な国についての興味関心を深めていく。

本単元「行ってみたい国を紹介しよう」では,はじめにイギリスやアメリカ以外の国で話されている英語に触れさせる。そこから,世界には様々な英語があり,それぞれが伝え合おうという意識を持って話すことが大切であることを気付かせていく。その後,世界には様々な国があることを知り,自分がどの国に行ってみたいか,その国のよさは何かを聞いたり伝えたりする活動を行う。子どもたちにとって自分の思いを積極的に伝えたいようになるようにつくられている教材である。

#### (2) 児童について

子どもたちは,昨年度から外国語活動を行ってきた。はじめは,ジェスチャーを付けながら話したり,進んで声を出して話したりすることに苦手意識をもつ子もいた。しかし,活動を繰り返すことで,進んで声を出したり,ペアやグループでの活動を楽しんだりする子が増えてきた。

これまでの外国語活動を通して,子どもたちはコミュニケーションを図る楽しさを体験し,コミュニケーションを図るための大切なスキルも学んできた。アイコンタクトやジェスチャーなど体全体で表現しながら相手に伝わるように工夫して話そうという意識の変化が見られる。しかし,それらの工夫が形式的なものだけになってしまい,相手に伝わるような表現にならない場合も見られる。

昨年度から,中学校英語教員を T2 として,T・T による外国語活動を数回行っているが,学級担任単独で行う授業の時と比べて,子どもたちの反応は非常によい。T2 の発音に感動したり,T2 の話す外国や北松園中学校の様子に大きな関心を示したりしている。

#### (3) 指導にあたって

本単元では,英語での自己紹介を聞いてどの国の人の自己紹介かを当てる活動や,色などのヒントから国旗を当てる活動,「I want to go to ~.」のチャンツを言う活動,ビンゴや線結びのゲーム,自分が行きたい国やその理由を発表するスピーチを行う。これらの活動を通して,世界には様々な英語があり,伝え合おうという意識を持つことが大切であることに気付かせたい。また,様々な国々についての興味や関心を深めさせていきたい。

本単元では第1時と第2時に T・T を取り入れる。第1時では,T2 がネイティブスピーカーのような役割を持ち,国旗当てゲームを進める。また,チャンツの前に T1 と T2 が英語で会話をし,その会話からチャンツの内容を知らせ,関心を高めさせたい。チャンツは事前アンケートによる子どもたちの実態に合わせて作ったものを行う。また,T1 と T2 のコミュニケーションの様子から,「相手の目を見て」、「聞こえる声で」等の話し方のモデルを子ども

も達に示してから活動に入るようにする。

本単元の第1時と第2時に T・T を取り入れることにより、T2 の専門性を生かし、子どもたちの実態にあった活動を行うことができる。それによって、子どもたちの関心が高まり、気付きが多様になると考えた。

この学習は、中学校外国語第2学年1学期に学習する Unit 3 E-pals in Asia での不定詞「I want go to ~.」の学習へとつながっていく。このようなつながりを踏まえた上で、学習活動を展開していきたい。

### 3 単元の目標

〔コミュニケーションに関すること〕

・積極的に英語で相手の行きたい国を尋ねたり、自分の行きたい国を答えたりしようとする。

〔慣れ親しみに関すること〕

・行ってみたい国や理由を話す活動を通して、英語の音声やリズムに慣れ親しむ。

〔主として言語や文化に関すること〕

・世界では様々な英語が話されていることに気付く。

### 4 学習活動計画及び評価規準

4 時間

時	学習内容	使用表現	評価規準 評価方法		
			コミュニケーションへの意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化への体験的理解
1 本時	世界には様々な英語があり、いろいろな国があることを知る。 T 1 + T 2	What country is this? I want to go to Italy. I want to eat pizza.	互いに伝え合おうとする意識が大切であることを感じ取る。 発表観察 振り返りカード		世界には様々な英語があり、いろいろな国があることを知る。 発表観察
2	様々な国についての話を聞き、その国のよさを知り、自分が行きたい国を考える。 T 1 + T 2	I want to go to ~. I like ~. I want to see ~.		行ってみたい国やその理由の言い方を知り進んで使おうとしている。 発表観察	様々な国のよさに気付き、異なる文化に対して理解を深める。 発表観察 振り返りカード
3	行きたい国を尋ねたり、尋ねられたことに答えたりする。 H R T	I want to go to ~. I want to see ~. I want to play ~.	相手の行きたい国を進んで尋ねたり、相手に伝えるように自分の行きたい国を答えたりする。 発表観察 振り返りカード		
4	行きたい国とその理由を発表したり友だちの行きたい国やその理由を理解したりする。 H R T	Where do you want to go? I want to go to ~. I want to see ~. I want to play ~.	自分の行きたい国とその理由を相手に伝えるように話したり相手の話していることをしっかり聞いたりしている。 発表観察		

### 5 本時の学習

#### (1) ねらい

世界には様々な英語があり、いろいろな国があることを知る。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	時間	T 1 の活動	T 2 の活動	指導上の留意点・評価 (留意点 *評価)
導入	<p>1 あいさつ ・日直が挨拶をする。</p> <p>2 単元のめあてと本時のめあてを確認する。 世界にはどんな国があるかを知ろう。</p> <p>3 いろいろな国出身の人の英語での自己紹介を聞く。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をし, T2 を紹介する。</li> <li>・めあてを確認し, いろいろな国の人の英語での自己紹介を聞くことを伝える。</li> <li>・聞き取ったことを尋ね, 答え合わせをする。</li> <li>・いろいろな国の人々の英語の話し方や発音について気付いたことを尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をする。</li> <li>・外国の人が話す日本語を紹介し気付きを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい雰囲気作りをする。</li> <li>・伝えようとする気持ちが必要であることを確認する。</li> <li>* 世界には様々な英語があることに気付く。 発表観察</li> </ul>
	展開		<p>4 国旗当てゲームを行う。</p> <p>5 チャンツを言う。 I want to go to ~.</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図で位置を確認する。</li> <li>・英語を公用語にしている国を示し, 様々な国で様々な英語が話されていることを知らせる。</li> <li>・国旗カードを示しながら自分がどこの国に行きたいかをチャンツで紹介する。 T1:Look. This is . I want to go to . 理由は~。 Osawa-sensei, do you want to go to ? T2:Yes, I want to go to . 理由は~。 I want to go to , too. 理由は~。 Everyone, do you want to go to</li> </ul>

			<p>?</p> <p>T1:How about , Osawa-sensei?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 がチャンツの絵カードを示し, T2 がジェスチャーを付けながらゆっくりチャンツを紹介する。</li> <li>・ チャンツを進める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1, T2 はコミュニケーションのモデルとなるような話し方をする。</li> </ul>
終末	<p>6 めあてについて振り返りをして自己評価カードを書き, 本時の感想を交流し合う。</p> <p>7 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日直が挨拶をすすめる。</li> </ul>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価カードに気付いたことを書かせる。</li> <li>・ 評価が低かった児童にも教師の評価により満足感をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の感想を話す。</li> <li>・ 挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の活動での態度面と英語を聞いたり話したりする意欲面について評価し, 次時への意欲を持たせる。</li> <li>* 互いに伝え合おうとする意識が大切であることを感じ取る。</li> <li>発表観察 振り返りカード</li> </ul>
		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶をする。</li> </ul>		